



杉並区立 杉森中学校

学校だより 第326号

平成24年10月31日

平成24年度 第6号

「実りの秋に」

副校長 田邊 克宣

澄んだ秋空を背景に、富士山の化粧がだいぶ進んでいます。東に煙るスカイツリーから目を転じると、高さにしては5倍強ですが、やはりその姿は圧巻です。

古の歌人が、”天地の分れし時ゆ ～”と詠んだその偉容。千数百年前の人々も、畏敬の念をもって見上げたであろうその姿。DVDもブルーレイもない時代の風景を、今、目の当たりにすることができるのは（もちろん想像の世界ではありますが）、文字として歌が残っているからに他なりません。言葉の持つ力を、改めて思います。

先週の木曜日、第33回合唱コンクールが行われました。年を追うごとに充実した内容になっていくようですが、今年、特に感じたのが「言葉の重み」でした。

歌には思いが込められている。その思いをどれだけ自分なりに、また学級として解釈し、消化した上で歌声に乗せることができるか。

江戸時代の俳諧の連歌では、作り手がそのまま聞き手としての立場にもなることで、その場の共感性を得ることは容易にできたようです。合唱ではどうでしょうか。

和歌や連歌と合唱を単純に比較することはできませんが、作られた歌や句に自分の心を同化させることができるかどうかという点では、どれも同じ性質を持ちます。

見も知らない作者の書いた歌詞を読み、学級の全員が、そこに自分の心を同化させて歌うということは、かなり高度な知的作業が要

求されます。一人一人の個性のぶつかり合いの中で、当然、不協和音も生じます。

実行委員を初め、指揮者、伴奏者、パートリーダー、そして学級の仲間たちが、揃って合唱を創り上げていく過程で、それぞれが苦労をしたことでしょう。そして、途中いろいろありながら、本番ではすべての学級が見事に心を一つに歌い上げました。その歌声は、聴き手のみならず、歌い手自身、一人一人の心にも深い感動となって刻み込まれたことと思います。私自身、歌詞が心に直接響いてくる瞬間を何度も覚えました。合唱の技術だけでなく、各学級がそれぞれの歌詞を大切に歌っていたからこそ、心に響く歌となったのだなど、「言葉の重み」を改めて思います。

9月から、1年生の移動教室、3年生の修学旅行、2年生の校外学習と、大きな行事が続きました。いずれも、事前学習を綿密に行い、本番に臨んだものです。その足跡は、事前の掲示物や事後の壁新聞、ジャバラリポートなどで、しっかりと言語化されました。

知識や体験が身となるために、言語化は必要不可欠なものです。日々の学習から行事まで、思いや考えを言葉にし、書いたり発表したりすることで、頭と心がより豊かに耕されていきます。

継続した言語化の取り組みを土壌として、合唱コンクールの成功という実がなりました。この秋一番の、大きく、そしてずっしりと重たい収穫です。

～ 9～10月のアルバム ～

   前 新 (ご苦労さまでした) (よろしくお願いします)	【生徒会役員・専門委員交替】 9/26(水)の選挙を経て、10/22(月)より新生杉森中がスタートしました。受け継がれる「自由と責任」。
   	【3年修学旅行】 9/30(日)～10/2(火) 5:30 起床で若草山ハイキングへ。事前学習からしっかり取り組んだ、実り多い旅行でした。
 	【給食試食会】 10/2(火) PTA 主催の試食会が和やかに行われました。その後、学校給食運営協議会を行いました。
  	【2年校外学習】 10/3(水) 鶴岡八幡宮の大公孫孫樹の”ひこばえ”に、歴史の重みと、新たな生命力を感じました。
  	【ふれあい運動会】 10/6(土) 3年生のボランティア5名が、にこやかに、気持ち良く活動していました。
  	【合唱コンクール】 10/25(木) 練習、リハーサル、そして本番。歌声を合わせる中で培われた心のありようこそ、宝物です。
  	【いのちの教育】 10/29(月) UNHCR の活動から、身近な人、日本、世界の人々のいのちの大切さを学びました。
[11月の予定] 2(金) コミュニケーション授業 (3年) 4(日) 中学校連合文化祭 (始) 5(月) 三者面談 (3年) (始) 6(火) 研究授業 (1B 音楽) 9(金) 三者面談 (3年) (終)	11(日) 中学校連合文化祭 (終) 16(金) コミュニケーション授業 (2年) 20(火) 期末考査(始) 21(水) 小中合同研究会(馬橋小) 22(木) 期末考査(終) 23(金) 勤労感謝の日